

実習科目3-2

公衆衛生学実習モデル・コア・カリキュラム

全体目標

人獣共通感染症の制御には、予防や治療に加え、病原体の分布状況や宿主動物などの疫学的情報を得ることが重要であり、そのためには精度の高い診断技術が求められる。人獣共通感染症の特色や診断の意義を理解し、各種検査法、診断法を修得する。 [(1) ~ (4)]

大気・水環境の衛生検査手技の修得を通じて、環境の衛生状態を評価する能力を身につけ、獣医師の任用資格の一つである環境衛生監視員として必要な環境分析技術の基礎を理解する。また、日常生活や産業活動にともなう環境負荷の大きさを理解する。 [(5) ~ (8)]

(1) 人獣共通感染症の診断に必要な基礎知識

一般目標：

人獣共通感染症の特色、診断の意義を理解し、検査法、診断法を身につけるとともに、関連法令に関する知識を修得する。

到達目標：

- 1) 人獣共通感染症の特色と診断の意義について理解する。
- 2) 人獣共通感染症の診断法や検査法に関する原理・技術を修得する。

(2) ウイルス性人獣共通感染症

一般目標：

ウイルス性人獣共通感染症に関する検査法、診断法の原理を理解し、その技術を修得する。

到達目標：

- 1) 狂犬病を診断する際の動物の特徴と噛まれた人の対応を理解する。
- 2) 狂犬病ウイルス抗原検出法の原理を理解し、その技術を修得する。
- 3) 日本脳炎の診断法の原理を理解し、その技術を修得する。
- 4) インフルエンザの診断法の原理を理解し、その技術を修得する。

(3) 細菌性人獣共通感染症

一般目標：

細菌性人獣共通感染症に関する検査法、診断法の原理を理解し、その技術を修得する。

到達目標：

- 1) 炭疽の診断法の原理を理解し、その技術を修得する。
- 2) ブルセラ症の診断法の原理を理解し、その技術を修得する。
- 3) 猫ひっかき病とパスツレラ症の違いを理解し、それらの診断法を修得する。
- 4) 結核の診断法の原理を理解し、その技術を修得する。
- 5) オウム病の診断法の原理を理解し、その技術を修得する。

(4) 寄生虫性人獣共通感染症

一般目標：

寄生虫性人獣共通感染症の伝播様式ならびに検査法、診断法の原理を理解し、その技術を修得する。

到達目標：

- 1) アニサキス症の原因となるアニサキス幼虫の性状・伝播様式を理解し、幼虫を市販の魚類から検出する。
- 2) エキノコックス症の診断法の原理を理解し、そ

の技術を修得する。

- 3) トキソプラズマ症の診断法の原理を理解し、その技術を修得する。
- 4) クリプトスポリジウム症、回虫症、有鉤条虫症、無鉤条虫症の診断法の原理を理解し、その技術を修得する。

(5) 温熱環境の評価

一般目標：

温熱環境の測定法の原理を理解し、その技術を修得するとともに温熱環境が人に及ぼす影響を評価する。

到達目標：

- 1) 種々の測定器具を用いて温熱環境を測定できる。
- 2) 得られたデータから温熱環境の人への影響を評価できる。

(6) 大気成分の測定

一般目標：

大気成分の変化を監視する方法を修得し、大気環境の汚染状況と環境基準を評価する。

到達目標：

- 1) 適切に空気試料を採取できる。
- 2) 大気汚染成分を公定法に基づいて測定できる。
- 3) 検知管法による簡易分析法で大気成分を分析できる。
- 4) 大気中の微生物汚染を分析できる。

(7) 上水の水質基準の測定

一般目標：

水道水の水質基準と監視項目の測定法を修得し、飲料水の水質が人の健康に及ぼす影響を理解する。

到達目標：

- 1) 水道水が備えていなければならない水質基準および監視項目を公定法によって測定できる。
- 2) 公定法に採用されている機器分析の原理を理解し、機器を扱うことができる。

(8) 下水・汚水の衛生試験と公共用水域の水質基準

一般目標：

下水・汚水の衛生状態を検査し、下水処理の汚水浄化能力とその限界を理解することにより、生活排水や工場排水等の環境への負荷を理解する。また、公共用水域（河川、湖沼、海域等）の水質検査を通じて、水環境の衛生状態を把握する。

到達目標：

- 1) 下水・汚水の公共下水道への排水基準と水処理施設等から公共用水域への放流水の水質基準を理解し、各項目を公定法によって測定できる。
- 2) 公共用水域から水試料を採取し、公定法によって監視項目を測定できる。
- 3) 公定法に採用されている機器分析の原理を理解し、各種機器を扱うことができる。